



あかまつ

令和4年度

第46号

令和4年11月14日

《学校教育目標》 夢に向かって 本気で チャレンジ! 笑顔の花さく 南っ子

「第2回南っ子音楽集会」 10日(木)

第2回となる今年度は昨年度に引き続いての〇〇〇〇さん(サキソフォン演奏)に加え、地域学校協働活動の推進員の〇〇さんにコーディネートいただき、「横沢ささら保存会」の皆様にご出演いただけることが叶いました。太田ジュニアマーチングバンド“Sprout”の東北大会銀賞の堂々たる演奏(実は東小から Sprout の隊員が演奏に駆けつけてくれました。Sprout の皆さん、素敵な演奏ありがとう!!)、〇〇さんの艶やかなサキソホンの音色、そして、地域の文化財でありながら子どもたちにとってなかなか見る機会のなかった横沢ささらの演舞、これを3つとも味わうことのできる大変貴重な、そして幸せな時間となりました。

そして、最後は子どもたちと出演者全員による「秋田県民歌」です。倉田政嗣作詞・成田為三作曲は本校校歌と同じ。そんな県民歌が体育館一杯に響き、子どもたちも出演のみなさんと一緒にふるさとの音楽を全身で感じる事ができました。

特に今回出演が叶った横沢ささらでは、シコスリ役(ささらを摺りながら、三匹の獅子に絡んで終始滑稽な所作で跳ね回る役)の方は、「南小の子どもたちのためなら」と10年ぶりに演じてくださったとのこと。また、1年生の〇〇さんは「この子は、6年生のお兄さんの練習をちっちゃいときから見てきたから。たぶん史上最年少だ。」とのこと。

この集会を通して地域の伝統に触れたり、演奏を聴いたり、県民歌を歌い継いだりすることで、ふるさと太田や秋田に愛着をもつことにつながってほしいと強く願っています。



出演 横沢ささら保存会の皆様
 6年 〇〇〇〇さん 〇〇〇〇さん
 1年 〇〇〇〇さん
 〇〇〇〇様
 太田ジュニアマーチングバンド
 “Sprout”の皆様

ありがとうございました!



<子どもの感想から>

- ・横沢ささらを小さい頃は毎年見ていて、自分のおじいさんがささらをやっていたのを思い出しました。道を歩きながら動く情景が頭に浮かびました。
- ・江戸時代から続く踊りと聞いてびっくりしました。カッコいいと思いました。ぼくも実際にささらをやりたいです。
- ・サクソの音がきれいで、さすが60年近く吹いているだけあると思いました。テレビに出る人はすごいです。

4年生の音楽で民謡の学習 11日(金)

4年生の音楽の学習に太田民謡同好会の4人の皆様が来校してくださいました。日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり表現したりして日本に伝わる音楽に親しむという学習です。

さっそく大曲仙北で生まれた「秋田おばこ」「長者の山」「ドンパン節」を尺八、三味線、太鼓の伴奏で実際に子どもたちの前で歌ってくださいました。そして一つ一つの楽器にまつわる貴重なお話をしていただき、子どもたちにと

ってとても心に残る時間となりました。太田分校の郷土芸能部を長年指導していらっしゃるとのことで、最後には、子どもたちも一緒にドンパン節を歌えるように指導してくださいました。ドンパン節は手拍子を取りやすく、耳なじみがあったので、4年生の子どもたちはすぐに歌えるようになりました。また、「おばこって何ですか?」という質問が出たところはさすがでした。質問した子は、歌詞カードを見ながら民謡の背景にある人々の様子などについても考えていたのだと思います。



横沢ささらもそうですが、民謡はテレビで見たり聞いたりすることはあっても、直に聞けるチャンスはなかなかありません。また、コロナ禍で各校へお邪魔することが減ってきていたところだったので、今回太田南小に来られて嬉しかったと同好会の皆様もおっしゃっていました。お互いマスクでしたが、地域の方と地域の民謡に触れることができ、貴重な機会をいただけたことに感謝です。

中学校の先生に体育を教えていただく 11日(金)

昨年も指導していただきましたが、今年度も引き続き太田中学校の〇〇先生(保健体育担当)に、子どもたちが体育を直接教えていただくことができました。

目的は、

- ・体育専門の先生から教えていただくことで、動きのコツをつかめる。
- ・中学校教員と小学校教員とが互いに情報交換をすることで、多方面から子どものよさを認めることができる。
- ・中学校生活への円滑な接続(「太田中に入学したら、吉澤先生に教えてもらえるんだな」と将来の自分の姿を思い描く)。

等です。また、中学校の先生の立場から考えると、小学生への指導に取り組むことで自分の研修につながり、中学生への指導に生かせることがあると思います。小学校の先生の立場からは小・中学校間の学びのつながりを意識して指導するようになったり、体育指導の理解を深めたりすることができます。まさに Win-Win です。

今回は3・4年生の跳び箱運動を1時間ずつ計2時間ご指導いただきました。跳び箱運動は腕支持(腕で自分の体を支えること)が大事ですが、その腕支持を取り入れた準備運動が「できるかな?でもやってみたい」という子どもにとってちょうどよい抵抗感のあるものでした。どんどんチャレンジしようとする子どもたちの表情が



とても印象的でした。

「跳び箱は久しぶりだったけどできてよかった」「手の付き方がよく分かった(4年ドン・パン・フワツ 3年ドン・ペン・スタッ)」というような子どもの感想が聞かれました。この取組の意義を感じたところです。

